

2020年度 福祉助成金（活動助成）成果報告書

ふりがな	かわべふっこうぶろじえくとあるく	
団体名	川辺復興プロジェクトあるく	
代表者名	榎原聡美	
連絡先	住所	〒710-1313 岡山県倉敷市真備町川辺725-15
	TEL	080-5752-0111
	E-mail	aruku.2018.10.18@gmail.com
	URL	https://www.facebook.com/aruku.2018
設立年（西暦）	2018年	
助成活動名	川辺地区及び真備町での地域コミュニティ再建	
助成額	500,000 円	
活動内容	目的	被災後の住民の心のよりどころとなり、日々の生活の立て直しに向けて支え合い、励まし合える居場所作りとして、地域づくりの中心としてサロン活動を行う。また、今もなお、仮設住宅などで暮らしていたり、被災時のショックや将来の漠然とした不安を抱えながら生活したりしている中で、安心安全な地域づくりを目指す。
	内容	『パンの日』 場所：あるく 開催日：4/2 参加者：61名 概要：顔を合わせるきっかけ作りを目的とした木村屋のパンの提供。パンは東日本大震災雇用・教育・健康支援機構様からのご支援。
		『リラックスヨガの会』 場所：川辺分館 開催日：4/6 7/6 7/20 8/3 8/17 8/24 9/3 9/7 9/28 10/8 10/12 10/19 11/9 11/16 11/30 12/3 12/7 12/14 12/21 3/1 3/8 3/15 3/22 ※1月2月はコロナ感染拡大の為中止 参加者：延べ235人 概要：ヨガ講師を招いて、参加者の体の不調に合わせて体を気持ちよく伸ばす会。ヨガを通して新しい友だち作りの場になっている。
		『体の循環ヨガの会』
		場所：川辺分館 開催日：9/10 10/22 11/12 12/10 3/11 参加者：55名 概要：初心者・子育て世代向けのヨガの会。子育て中の体の悩みに応じたヨガで体をほぐす。同じ子育てママを誘っての参加もあり、つながり作りにつながっている。
		『くらしとお金の学び舎』 場所：あるく 開催日：7/29 8/17 8/19 9/15 10/20 11/17 12/15 参加者：66名（うち子ども11名） 概要：被災後の生活再建のためのマネー教室。子供向けの「キッズマネー講座」や「教育資金講座」など、参加者の課題をテーマにした内容で行った。
		『つながるサロン』 場所：あるく 開催日：7/1 7/22 8/5 8/26 9/9 9/23 参加者：22名 概要：コロナ禍で様々なイベントが中止となる中、フラッと立ち寄って少人数で気軽におしゃべりができる場所としてサロンを実施。自粛中のストレスの軽減を目的とする。
『小物づくりの会』 場所：あるく 実施日：9/8 10/14 10/27 11/11 11/25 12/9 3/9 参加者：29名 概要：ジーンズをリメイクして、バッグやコースターなどを作る。参加者同士が教え合ったり、作品を見せ合ったりするなかで、日々の生活の楽しみを見出だす。		

	<p>『アロマクラフト体験』 場所：あるく 開催日：8/20 9/17 10/15 11/19 参加者：49名 概要：ボランティアの指導の下、アロマオイルを使った虫よけスプレーや手指消毒ジェル、マスク用スプレーなどを作成。いい香りに包まれながら、ボランティアとの会話が癒しにつながっている。</p> <p>『多肉植物の寄せ植え体験』 場所：あるく 開催日：4/11 6/6 7/5 8/8 9/12 10/18 11/29 12/20 3/28 参加者：77名 概要：ボランティア講師による寄せ植え教室。プレゼント用や自宅用に寄せ植えを作ったり、家庭で育てたものを見せ合ったりなど、会話が弾む憩いの場。</p> <p>『お抹茶の会』 場所：あるく 開催日：8/29 9/26 10/17 12/12 参加者：97名 概要：ボランティアの方によるお抹茶のふるまい。お抹茶をいただきながら、参加者同士が交流を深め、趣味でお抹茶道具をそろえていた方や嗜んでいた方が被災前の生活に戻ろうとお道具をそろえたり、茶碗を作って持ってきたりするようになり、生きがいづくりのきっかけになっている。</p> <p>『大人のための木工教室』 場所：あるく 開催日：6/14 7/12 9/20 10/25 参加者：51名 概要：大工さんを招いて、我が家や知人宅の表札を手作りしたり、棚づくりをしたりした。サロンではなかなか参加がない男性もこのイベントには多く参加があった。作る楽しみや新しい趣味としての生きがいにつながっている。</p> <p>『お正月花をかざろう』 場所：あるく 開催日：12/13 参加者：10名 概要：真備の竹を器にしたお正月のアレンジメント教室を開催。他者の作品を見たり、正月の過ごし方を話したりする中で参加者同士の交流の場となる。</p> <p>『防災カフェ』 場所：あるく 開催日：5/31 6/23 7/15 8/7 9/24 10/13 11/24 12/11 3/23 参加者：86名 (YouTube 配信 視聴回数 約 500回) 概要：被災後、少しでも安心して生活できるよう、防災・減災について少人数で気軽に学ぶことができる場。</p> <p>『川辺みらいミーティング』 場所：真備支所・川辺分館・川辺小学校など 開催日：7/19 11/21 1/16 参加者：会場 97名・ZOOM 9名・YouTube 視聴約 500回 概要：「目指そう！逃げ遅れゼロの川辺地区」をスローガンに掲げ、自助と共助の推進と防災意識向上を目指す川辺地区の防災研修。「マイ避難先を考えよう」「防災まち歩きをしよう」などを開催。</p> <p>『キッズ防災事業』 場所：あるく 開催日：10/31 参加者：35名 概要：子どもたちへの防災教育。非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパンと共催して行い、地震について楽しく学んだ。</p> <p>『防災おやこ手帳の作成と啓発活動』 西日本豪雨災害の経験を基にした防災冊子を作成し、完成した冊子を活用し多くの人に備えるきっかけとなるように伝えた。冊子発行部数：10000冊 中学生との啓発活動：12/9 申し込みがあった先へ郵送 ・講演会の教材として活用・メディアでの啓発他</p> <p>その他、事業遂行に必要な打ち合わせ（月2～4回程度）、スタッフミーティングや準備作業（月2回程度）などを実施。</p>
成果	<p>様々なイベントを実施することにより、同じ趣味の方が集まり、顔見知りが増えたり、次回のイベントで再会することを楽しみにしたりでき、災害後の大切なコミュニティーの場となった。中には、災害後やコロナ禍での生活を不安に思う言葉を漏らして帰られる方もいて、話をすることでストレスの軽減にもなっている。また、そうした困りごとを連携団体と共有し、活動に活かすことができた。なじみのあるくスタッフと会うことを楽しみにしている参加者もいて、地域住民が中心となって運営するサロン（居場所づくり）の大切さを再確認した。また、コロナ禍においても、感染対策やオンラインを併用して開催し、継続することができた。</p>

今後の課題と対応策

災害公営住宅が完成し、災害から3年を迎える。災害後の支援や支援団体が減っていく中で、まだまだ、心の復興、金銭的な不安、災害への恐怖心など課題が多く残っている。特に発災から3年後にPTSDの発症が多くなるという。気軽に集まることができる場を設け、悩みを共有し、住民同士が助け合い支え合うことができる関係性作りは今後も必要不可欠であるが、当団体の運営資金・マンパワー共に十分ではなく、継続をしていくこと自体が大きな課題となる。
経費を削減しながら、事業の継続ができるように対策を考えていきたい。



写真の提出

